

タイ国内で一番 僻地にある学校
バーンクンメートウンノイ小学校 訪問 1-2



2014年6月8日 日曜日 現地到着 19:00

参加者

プラアドゥン住職及び住職の世話をするタイ人 2名

JT/ASH JAPAN 三原健三氏

フレンド株式会社 山口警右氏

チエンマイ ロングステイ 志田ご夫妻

JT/ASH THAI 樋口氏

Green Life Support 株式会社 市毛みどり

アドサイン キョサワット氏 合計 10名

何故?この場所を訪問することになったか?

それは今年2014年2月トゥンティン小学校を訪問する前参加者の志田さんご夫妻から32インチの中古のテレビを寄付する先として住職の後輩でもあるこのバーンクンメートウンノイ小学校はどうだろうか?と相談され...全員賛成、オムコイ手前のホット市でオムコイ地区の教育委員会が行われるため校長先生が山から下りてきているのでそこで前回は手渡しで寄付をすることになりました。

そこがタイで一番僻地にある貧しい学校であることなどを説明され、何かできることはないだろうか?と機会があれば是非立ち寄ろうと皆で話していたからなのです。

その願いを叶えるために今回完成式の後に足を伸ばすことで校長先生と相談しながら...この日を迎えました。

さて...何しろ雨が止みません・トゥンティン小学校からオムコイまで戻り更に別の道を行かなければなりません、最後の30kmの山道は明かりがありません、暗くなれば勿論危険が伴います、なので出来るだけ早くこのトゥンティン小学校を出発しなければなりません...

しかしここでまさかの山道の恐ろしさを味わうことになるとは思いませんでした。

雨で学校の出口の山道は泥沼状態です・この斜面を登ることができないのです、先に住職の乗るトラックがその沼地を上がろうと物凄い煙を出しています。

この時心のどこかで全員が感じたことでしょう...バーンクンメートウンノイ小学校に行けないかもしれない...

ここで数名が無理はしないでチェンマイに戻ろうと話をし始めておりました、しかしまだ現状さえ見えない状態・住職がいける場所まで行こうそのために日本から来たのだからその希望をここで消さないで駄目な場所で考えようと話してくれました。

内心不安は隠せないものの・・・何とかその泥沼の坂を登りきり・・・無事脱出に成功しました。

この時私は個人的に 25 年間のタイ生活の中で初めて山道の泥沼化した恐ろしさを体験したのです。

これは難しいだろうと感じたのはおそらく 100% 全員だっただろうと思います。

オムコイまでそれ以外に難しい場所もなく無事に降りてきました、さて・ここからパーンクンメートウンノイ村まで 70 km を走ります、途中の道はトゥンティン村の道とは異なり舗装された普通の国道を走るので全然不安はありませんでしたが・何しろ一番僻地な場所にある場所で山道であることが説明されているわけです・どこからそれが始まるのか？皆多少不安を抱きながら車に揺られておりました。

丁度お葬式でチェンマイに下りてきていた校長先生と住職が連絡を取り合い山の麓で待ち合わせしたのが午後 16 時、校長先生の話では？昨日丸一日雨が降り(雨季の最初の日)不運にも途中の道は泥沼化している様子だということです、とにかく今は雨が止んでいるので行けるところまで行きましょうということで山道を進みます、・・・最初の山道の勾配は物凄い物で・これを上げるのかと物凄いのぼり道に驚いてしまいました、これでは当然雨が降れば登れないし降りられません。

ここですでにほぼ全員が無理だろうと感じておりました。

そんな山道をどんどん上がると道沿いにはバイクがたくさん止まり・人が歩いています、そうなんですこの時期この辺りでは 1 年に一度ヘッドトープというキノコが収穫され 1 リットル 160B もする高価なキノコなんです、なので村の人は総出その収穫に励むわけなんです。

かなりの山道を何とか無事に通り過ぎたところで・・・一番の難関場所で立ち往生となりました・校長先生の先導する車が道端に止まり登るのを制します。



2 台も道端に寄せてその様子を伺いますが・先に道を登れず往生している車が下りてくるのが見えました。タイヤに鎖を巻いて・この車何とか登りきります、続いてトライしてみますが・途中でタイヤが空回りしているのが分かりこの車では登れないことを実感しました・・・これを見た全員が断念するほうが安全ではないかと口に出しています。

私はとても残念でした・ここまでだろうか・・・ここで寄付の品物を渡して引換えすほうが皆の安全を考えたら・そう心の中で苦しんでしまいました。

校長先生は・皆さんがここまで来てくれたのですから何とか学校に来て欲しい・なので・

山道を登れるトラックを呼んできてもらいます、校長が乗ってきたトラックに荷物を全て移してここに車を乗り捨てましょう・・・



これは凄い判断で・正直驚いてしまいました、一行の責任者である三原氏に先生からこのまま強行突破かそれとも無理しないでこのまま引き返すかの判断を求められました。誰もが引きかえすだろうと思っていたにも拘わらず一番最初によし行こうと手を上げたのが代表の三原氏でした。その一言で行くのを躊躇していた方々も諦めて・渋々貴重品以外の荷物をトラックに移し泥沼化した坂道を足を取られドロドロになって登り始めます、なので当初予定していたものは持ち込めず最小限にしての出発でした。



乗り捨てた車は深夜そのままでは危険だということで見張りを二人頼んでみてもらうことになりました、それは深夜象が出たとき車をゆすったりして大変なことが起こらないようにということで・・・この山に象がいることを知りました。野宿するのも大変だろうと思います、何もないのですから・

でも村人は校長先生と本当に良い関係なのでしょう・喜んでそれをやってくれました、ありがたいことだと思います。ここで思うことは私たちが行くことは大変迷惑を掛けてしまうことであるということなのに、私たちの気持ちを理解してくれて・何とか学校まで連れて行こうと連携で協力してくれる村人達の行動でした。

校長先生を迎えるために学校からも男子教師達がバイクで降りてきてくれました、この行動は参加者達に勇気をくれました。行こうよ・・・ここまで来たんだから・行こう！頑張ろう・と山道を 5km 歩くことになります。



山の気候は涼しくすがすがしいので・多少の小降りの雨も気にはならず・話をしながら自然を楽しみ歩きました。峠の景色は素晴らしく・・・あの先の麓が学校です・・・の説明に仰け反ってしまいましたが・まず・・・迎えが来るまでここで待つより先に進もうと学校の看板のある場所まで歩きました、二股に分かれたその道の右を行けばターク県に抜けますその左を折れて進むと学校に向かいます。

しかしこの道が凄いいいものがありました、暗くなりだした道のりは皆が 1 緒に歩いているので恐怖はありませんでしたが・・・翌日のその恐怖を体験します。

歩き始めてからほぼ 1 時間半・・・やっと迎えのトラックが来ました。

これから先は暗くなり歩くのは危険な場所・丁度良いタイミングでした。

学校に到着したときにはすでに暗くなり・微かな明かりで見える橋？に生徒がいます、先生が持ち込んだレンガを運んでいました、そして私たちが持ちこんだ荷物も運んでいました。



車から降りて橋を渡ろうとする私たちに全員がサワディーと声を掛けてくれます、手が空いた子はちゃんとワイをししてくれます・しかも皆笑顔・・・えっ？て驚いてしまいました、その瞬間にきてよかった・・・実感です。

すでに真暗な山の中ですから・何がなんだか分かりませんが・・・疲れている私たちにすぐに迎えてくれたのは・夕

食でした、来る途中に買い物をして用意する予定だったのが雨などで不可能でしたから、それこそ持ち込んだインスタントラーメンなどでと諦めていたところのおもてなしです。

そこに出てきた夕食はあの・収穫期のヘッドトープ料理ではありませんか・・・貴重だろうお米やゼンマイのゆでたものや現地で取れた甘いカボチャのゆでたものそしてここに来たなら絶対食べるんですというナムプリックプラトゥでした、どれもとても美味しくこれだけは外せないと、持ち込んだビールが美味しいこと・・・

このバーンクンメートウンノイ小学校は宿舎制で全校生徒は174名

その中で宿舎を利用しているのは116名 残りは通いの子供達です、ここで寝泊りしている子供達が私たちのために歓迎会をしてくれるというので、広場に歩いていきました、山合いを利用した宿舎は綺麗なものばかりでちょっとしたリゾートです。

それは校長先生が寄付を募りその場所その場所を建設する際に子供達に綺麗なものを見せてあげたいという望みがこめられているため各場所には色彩を考えた建物のつくりになっておりました。

この女性用の宿舎は何時どこからの寄付で作られたものですかなどの説明を受けました、この校長先生がこの場所に赴任して7年目の今年までの間に少しずつ徐々に増えてきた様子が伺えました。

同じオムコイにあり、更にここは70kmもの山の中にあるにも関わらずこれはこの校長先生の教育方針と努力の成果ではないでしょうか・・・

広場で待っていた子供達から学校で協力して作った学校の歴史のビデオを見せてもらい、そして女性徒達がダンスを踊ってくれました。

そして校長先生から日本人がこの学校に足を踏み入れたのはこれが初めてで先生も緊張しています、そして途中これないかもしれないというハプニングの中、山を歩いてもここに来ようとしてくれたことに感謝していますとても嬉しいですよという歓迎の言葉をもらい、代表の三原氏からもここにくる機会をくれてありがとう、皆と会えて嬉しいですよと歓迎のお礼を述べました。

その後もうひとつのサプライズは・・・校長先生が町から用意してきてくれたコムロイでした、生徒達も嬉しそうに皆10個ほどのコムロイを上げました。何もないこの場所で1年にそう何度もは上げられないサプライズを私たちのために用意してくれたことに感謝です。

すでに21時半を回っていたのですが、学校の正面に建つ大きな仏像に住職が線香を上げるので皆でお祈りして旅の無事を祈ろうと皆で火を灯します、そういう一つ一つの行動に皆暖かい心おもてなしと粋な対応に感動したのではないのでしょうか。



ちなみにこの仏像子供達と村人達とで24時間で作り上げたそうです・・・素晴らしい共同作業に驚かされました。今日持ち込んだレンガはその仏像を雨から守るための屋根を作るためだったそうです。

その後私たちに出来るボランティアは何か？何が必要で何ができるのか？を相談するために深夜22時は遅い時間ではありますが相談することになりました。

もう一度学校の現状の報告を受け先生から一番必要なすぐに対処できるボランティアは何かを報告してもらいます、参加者達の考えは道の舗装や学校の教育を目的とした農耕作からの収入源など色々な意見が交わされましたが、まず初めてこの学校に出来るボランティアとしては 26 人分のボーイスカウトガールスカウトの制服を揃えること・と言うものとなりました。そこで代表の三原氏と山口氏から翌朝そのお金が寄付されることとなり始めてこの学校へのボランティアを行うことになりました。

学校が一番望んでいることは・・土で出来た運動場でした、それは現在学校の所有地である川沿いの場所を開拓して運動場にすることで子供達が元気に運動出来る場所で健全な体を維持し山の子供達で一番の問題である薬物へ体を投じてしまわないように管理したいというものでした。

この学校の教育体制は 10 日間宿舎に泊まり勉強し 4 日間自宅へ帰るためお休みになります、あまり長い時間の休みが続くと子供達は全然勉強に戻る意思がなくなり戻ってこなくなることからその時間を短くしたのだそうです、雨季に入り雨が多ければ・山から下りられなくなるんだそうでそれもまた・困ったことだと思います。

あの一番大変な場所だけでも舗装する方法はないか？そのお金を集めたほうがよいのではないか？など話し合われますが、それは一時しのぎでしかないことそして逆に道がよくなれば・たくさんの方が訪れて環境が変わってしまうことで悪影響もあるのではないか？などの懸念があり・いずれまたそれは話し合うということで・・深夜遅く会議はお開きになりました。

今日の寝床は子供達の教室です、テントを張り寝袋で寝ることを予想していましたが疲れた体には嬉しい寝床でした、流石に泥水に見える水で体を洗うことは考えてしまいましたので体を拭く程度・・・それでも泥だらけで寝るよりは綺麗です。男性は下着程度着替えただけで寝床に入ったようです。翌朝子供達が起きるのが朝 05 時・・残すところ睡眠時間は 4 時間弱・・